

西之内町地車新調
実行委員会通信

西之内町新調地車

彫刻の物語背景と紹介（24） ～大坂夏の陣天王寺口の合戦～

走り梅雨に濡れ、木々の緑がいつそう色鮮やかになりました。西之内町の皆様におかれましては益々ご清栄のことと心よりお慶び申し上げます。

本年は、泉州地方各所でも地車の修理入魂式が執り行われております。西之内町の新調地車入魂式やお披露目曳行にも期待が高まつてまいります。さて、「新調通信」も今回より「大坂夏の陣」の物語を3話ご紹介いたします。

本多出雲守忠朝は最前線に一隊の大将として憤慨のまま戦いが始まるのを待つておりました。忠朝は徳川四天王の一人と言われた本多平八郎忠勝の次男であります。父の平八郎はかつて太閤秀吉より「東の本多忠勝、西の立花宗茂」と称され、天下無双の大将ありと激賞された武将であり、忠朝はその次男であることから、昨年冬の



本多忠朝（大阪夏の陣屏風より）

陣にて、本多正信より「父の気性には似ぬ倅じや」と言われ恥辱を味わうことになります。六日の道明寺での真田との一戦では、兄忠政が幸村に為す術もないほど押され、「手を出し得ない

ほどの戦下手」と評されたのであります。忠朝は是非にでも汚名を注がんとこの日の戦いに臨んでいました。今日の戦が最後の見せ場になることがわかっていた忠朝は、たとえ討死しようとも本多家の名誉を守るべしとの思いが強く、他の隊よりも前方に出ての陣構えとなりました。

貴意に従い、諸手に張り出す
よう申し伝えよう」忠朝はよ
し此れ幸いと思い、また諸手
が張り出すならば我はもつ
と先に出ないと功名手柄は
立てられぬと思い、まずは銃
隊を前進させました。

忠朝の銃隊は毛利隊に近
づくと一斉に撃ちかけまし
た。

軍監の安藤帶刀直次が視察に来て忠朝に指図をしました。「出雲殿、貴殿の備え、余りにも張り出し過ぎでござらう。後にお引き下げられよ」それを聞き、忠朝は返答しました。「一旦ここまで張り出したならば、敵の注視する場にて引き下げ申さば、味方の士気を落とさせるばかりとなり申す。誠に我張り出しすぎると仰せられるならば、他家の諸手を我が手並みに御進めなされて然るべきと存じまする」帶刀は納得した様子で、「それも一理あり申す。ならば

一方、作戦の打ち合わせのために、幸村の陣へと赴いていた毛利勝永は、忠朝隊の鉄砲攻撃に対して「待て！まだ撃つな！」と、自らの鉄砲隊に指示し、できるだけ惹きつけてここぞ！という時に一斉に発砲した事で、一気に七十余名の敵兵を倒しました。忠朝の鉄砲隊は本隊の方へ雪崩のように崩れていきましたが、そこを勝永は見逃さず、息子である勝家らの先頭集団に突撃を指示しました。

こうして、うまく忠朝隊の中堅へと迫った勝永隊は、さらに槍をそろえて突入りし、本多の名だたる家臣を次々と

討ち取ると、いよいよ主君を守るべく、忠朝の身辺に集まりはじめる忠朝隊・・・中には逃げ腰になる者もいましたが、はなから命がけの一戦との覚悟を決めている忠朝は、逃げる味方を叱咤激励しながら一步も引かず、果敢に攻める姿を見せていました。しかしその時、一発の銃弾が忠朝を貫き、その勢いで馬上から落下してしまいます。

それでもまだ屈せず、しばらくは来る敵を倒す忠朝でしたが、さすがに周囲から一斉に突かれた槍には応戦し切れず、ついに倒れ首を取られました。

こうして忠朝隊を突破した勝永隊は、崩れた忠朝隊が左方にとへ、左右にいくつもの首をぶ

隣接する第四軍の松平忠直隊へ合流するように向かって行くところを追撃し、忠直軍の右翼へと突入しつつ、傍らの真田信吉と信政の兄弟をも蹴散らし、徳川方の前線第一軍を撃破したのでした。

さらに寄せ手（徳川方）第二軍として登場した小笠原秀政と忠脩の父子を討ち破り、続く第三軍をも撃破して、徳川の総本營目がけて突進していくので

として崇められております。忠朝の墓は一心寺の境内にあります。一心寺の酒封じにちなんだ彫刻も忠朝の近くに配置しております。洒落を楽しんでいただければと思います。完成をお楽しみに。

新調委員の独り言

新調地車の彫り物 および本体組立 進捗報告

先日行われました装飾品および太鼓の内覧会では、雨の中ご参加いただきまして、誠にありがとうございました。次にお目にかかるのは入魂式です。地車に取り付けられた姿は、またちがつた雰囲気になると思われます。

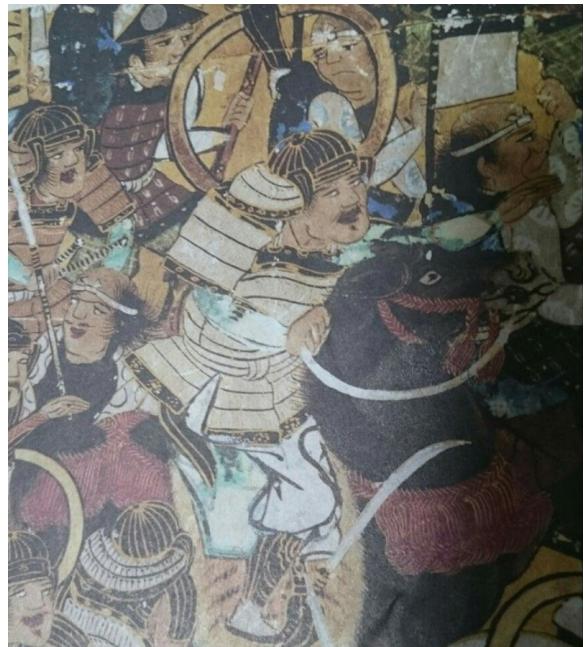
5月に入り、山本師の工房では引き続き見送り人物と土呂幕の仕上げ作業に専念しております。土呂幕の仕上げでは、武者の着用している甲冑の文様や家紋にも注目していただきたい仕上がりとなつております。彩色に関しては、古風な中にも艶やかさを感じる物となつております。

植山工務店さんでは、見送りの人配置を確認した後、見送りの天井から小屋根の組み立て作業に取り

掛かつております。見送りの天井は細部にこだわりがあり、地車職人さんの技術の高さを伺えるものとなつております。小屋根の組み立て工程では、小屋根枠合と枠組が徐々に組み立てられており、着実に完成に向けてすすんでおります。

完成まで残り3か月となりました。

引き続き、ご支援のほど、宜しくお願い申し上げます。



毛利勝永（大坂夏の陣屏風より）